

建設業界の最前線で、若き力が輝いている。保温・保冷工事を手掛けるナイガイ（墨田区）の中四国支店・技術部に所属する西川颯馬さんは、入社2年目の23歳。持ち前のコミュニケーション能力で複数の現場

に携わる若き施工管理技術者だ。建設業界の明るい未来をけん引する「明日の星」の熱い思いを聞いた。



ナイガイ（墨田区）
入社2年目

にし かわ そう ま
西川 颯馬 さん

若き力が現場を動かす

「この会社を選んだ決め手は。」

「広島工業大学の環境学部建築デザイン学科で建築を学んだ。当初のものづくりへの興味から、自身の強みであるコミュニケーション能力を

生かせる施工管理職へと進路を定めた。数ある企業の中からナイガイを選んだ最大の決め手は、大学3年時の会社見学で感じた社内の活気ある雰囲気と、施工管理者の仕事にやりがいを感じられた

こと。賞与が年に3回あるという魅力的な待遇も、入社を決断する大きな理由だった。

「これまでの仕事内容は、現場監督の指導のもと、複数現場で施工管理の補佐業務に従事している。これまで大小合わせて20〜30件ほどの現場に携わった。材料の発注や工程の段取りも任されている。自分の判断で業務を進めること、すなわち『現場を動かす』責任感こそが、最大のやりがいとなっている。現場が円滑に進むかどうかは、自

分の力量にかかっている。特に印象的だったのは、初めて担当した3階建ての商業ビル現場だった。経験不足から困難も多かったものの、無事に工事が完了した瞬間、施工管理の醍醐味（だいごみ）を感じた」

「入社してからの感想、ギャップはあるのか。」

「建設業界に対して『職人さんが怖い』といったイメージを持っていた。実際は全くそんなことではなく、むしろ技術や知識を丁寧に教えてもらい、温かく指導してくれる。一緒にご飯に行ったり、コミュニケーションが非常に取りやすい雰囲気だ」

「今後の展望を教えてください。」

「現場で頼られる一人前の監督になること。一人で現場をスムーズに回せるようになりたい。現場に必要な資格は積極的に取得している。今後は経験年数が必要な資格試験にも挑戦し、着実にスキルアップを目指す」

「当社は広島のカッパースタジアム『エディオンピースウイング広島』の施工に関わっている。休日はサッカー観戦に全てを傾け、情熱を燃やす。普段、ファン目線で見られないものに、工事という形で関われることに感動した。自分の手で、人々が集い熱狂するようなスポーツ施設の建設に関われたら、これ以上の喜びはないかもしれない」

「現場で頼られる一人前の監督になること。一人で現場をスムーズに回せるようになりたい。現場に必要な資格は積極的に取得している。今後は経験年数が必要な資格試験にも挑戦し、着実にスキルアップを目指す」

「当社は広島のカッパースタジアム『エディオンピースウイング広島』の施工に関わっている。休日はサッカー観戦に全てを傾け、情熱を燃やす。普段、ファン目線で見られないものに、工事という形で関われることに感動した。自分の手で、人々が集い熱狂するようなスポーツ施設の建設に関われたら、これ以上の喜びはないかもしれない」

「現場で頼られる一人前の監督になること。一人で現場をスムーズに回せるようになりたい。現場に必要な資格は積極的に取得している。今後は経験年数が必要な資格試験にも挑戦し、着実にスキルアップを目指す」

「当社は広島のカッパースタジアム『エディオンピースウイング広島』の施工に関わっている。休日はサッカー観戦に全てを傾け、情熱を燃やす。普段、ファン目線で見られないものに、工事という形で関われることに感動した。自分の手で、人々が集い熱狂するようなスポーツ施設の建設に関われたら、これ以上の喜びはないかもしれない」